

再評価項目調書

再評価実施要件		● 事業採択後 (5 年) ○ 再評価後 (年) ○ その他 ()				
1 事業 概要	事業名	一般県道 ^{はちがみね} 蜂ヶ峯公園線 道路改築事業				
	事業場所	^{わかちょう} 和木町大字 ^{せだ} 瀬田 ~ ^{わか} 和木 地内				
	事業主体	山口県				
	事業期間	《 前回評価 平成 29 年 時 》 平成 29 年度 ~ 令和 11 年度 《 令和 9 年度 》 (西暦 2017 年度 ~ 西暦 2029 年度 《 西暦 2027 年度 》)				
	総事業費 (内用地補償費)	《 3,000 百万円 》 3,000 百万円 (220 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	272 百万円 (0 百万円)	進捗率 (用地補償費)	9 % (0 %)
	事業目的	<p>一般県道蜂ヶ峯公園線は、蜂ヶ峯総合公園のある和木町瀬田地区を起点とし、同町中心部の和木地区に至る幹線道路である。</p> <p>瀬田地区は、大規模災害発生時に、多くの避難者を収容可能な蜂ヶ峯総合公園を有し、県東部地域におけるヘリフォワードベース※1として物資等の補給を行う蜂ヶ峯防災広場が整備されるなど、防災・救助活動の拠点となっている。また、同公園は、県内外から数多くの利用者が訪れる観光拠点でもある。</p> <p>しかしながら、町中心部から蜂ヶ峯総合公園及び同防災広場に至る経路は、急勾配・急カーブの多い町道駒ヶ追鍛冶屋作り線を経由するルートしかなく、安全で円滑な交通に支障をきたしている。</p> <p>このため、当該区間のバイパス整備を行うことにより、安全で円滑な交通を確保するとともに、瀬田地区と和木地区との連絡を強化し、地域住民の利便性の向上や安心・安全の確保、地域の活性化を図るものである。</p>				
	事業内容	<p>○延長 長 L=1.6km (バイパス整備)</p> <p>○幅員 全幅7.0m (車道2.75×2=5.5m)</p> <p>○道路区分 第3種第4級</p> <p>○計画交通量 1,700台/日</p>				
事業効果	<p>○和木地区と瀬田地区との移動時間が短縮される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和木町中心部～蜂ヶ峯総合公園 約8分→約6分 <p>○災害時、多くの避難者を収容可能な蜂ヶ峯総合公園への円滑な避難や、蜂ヶ峯防災広場（ヘリフォワードベース）からの物資等の確実な補給が可能となる。</p> <p>○観光拠点である蜂ヶ峯総合公園へのアクセス性向上により、観光産業の活性化が期待できる。(令和元年度 観光客数約12万人)</p>					
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	<p>蜂ヶ峯防災広場ではヘリフォワードベース機能強化事業として令和2年度に新たな防災倉庫（災害に備えて物資を備蓄）が整備された。また蜂ヶ峯総合公園では新エリア（ビープラスエリア）が令和3年4月にオープンし、さらなる観光拠点としての活性化が期待される。</p> <p>当該区間の整備については、防災や観光振興の観点から、依然として必要性は高い。</p>			中項目評価	大項目評価
	関係市町及び地元の意向	<p>平成28年3月策定の「第5次和木町総合計画（基本計画）」の中で、「大規模災害発生時の避難場所である蜂ヶ峯総合公園へ円滑に避難することのできる道路の新設」、「蜂ヶ峯防災広場と和木地区を結ぶ道路の新設」として位置づけられている。</p> <p>当該道路は、毎年、地元自治体である和木町から早期整備の要望がある。また地元住民は、事業に協力的である。</p>			中項目評価	A・B・C

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前回 (基準年：H28)</th> <th colspan="2">今回(再評価・再々評価) (基準年：R3)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">便益 (B)</td> <td>①走行時間短縮便益</td> <td>2,086</td> <td>2,722</td> <td>2,722</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②走行経費減少便益</td> <td>579</td> <td>139</td> <td>139</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③交通事故減少便益</td> <td>23</td> <td>10</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>総便益</td> <td>2,688</td> <td>2,871</td> <td>2,871</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>2,128</td> <td>2,289</td> <td>1,991</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>109</td> <td>31</td> <td>31</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>2,237</td> <td>2,320</td> <td>2,022</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>費用便益比(B/C)</td> <td>1.2</td> <td>1.2</td> <td>1.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】</p> <p>前回評価：「費用便益分析マニュアル」(H20.11) 基準年：H28 平成42年推計交通量</p> <p>今回評価：「費用便益分析マニュアル」(H30.2) 基準年：R3 平成42年推計交通量</p>	区分	主な項目	前回 (基準年：H28)	今回(再評価・再々評価) (基準年：R3)		備考	全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①走行時間短縮便益	2,086	2,722	2,722		②走行経費減少便益	579	139	139		③交通事故減少便益	23	10	10		④その他の便益						総便益	2,688	2,871	2,871		費用 (C)	①事業費	2,128	2,289	1,991		②維持管理費	109	31	31		③その他					総費用	2,237	2,320	2,022			費用便益比(B/C)	1.2	1.2	1.4		大項目評価 A B C
		区分	主な項目			前回 (基準年：H28)	今回(再評価・再々評価) (基準年：R3)			備考																																																									
	全体事業			全体事業	残事業																																																														
	便益 (B)	①走行時間短縮便益	2,086	2,722	2,722																																																														
②走行経費減少便益		579	139	139																																																															
③交通事故減少便益		23	10	10																																																															
④その他の便益																																																																			
	総便益	2,688	2,871	2,871																																																															
費用 (C)	①事業費	2,128	2,289	1,991																																																															
	②維持管理費	109	31	31																																																															
	③その他																																																																		
	総費用	2,237	2,320	2,022																																																															
	費用便益比(B/C)	1.2	1.2	1.4																																																															
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>現在用地測量を実施中であり、今後事業用地の確保を進める。設計については概ね完了しており、事業実施における阻害要因はなく、今後計画的な事業進捗が見込まれることから、引き続き当該道路の整備を進める。</p> <p>【事業費の変化】 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/></p> <p>【事業期間の変化】 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無</p> <p>買収が必要な用地に筆界未定地があり、その解消に時間を要するため事業期間を令和11年度まで延伸する。</p>	大項目評価 A B C																																																																
	(4) 代替案等の縮減の可能性	<p>コスト縮減</p> <p>切土工、盛土工の施工にあたっては他の公共事業との土砂流用の調整を図る。</p> <p>代替案</p> <p>利便性、経済性、施工性を総合的に勘案し、最適なルートを選定しているため、計画どおり進めることが妥当と考える。</p>	<table border="1"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>大項目評価</td> </tr> <tr> <td>a b</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C</td> </tr> </table>	中項目評価	大項目評価	a b	A		B		C																																																								
中項目評価	大項目評価																																																																		
a b	A																																																																		
	B																																																																		
	C																																																																		
3 環境	配慮事項	<p>法面について、緑化工法を採用する。 工事中は、散水等による粉じん対策や、沈砂池の設置等による水質汚濁対策を行う。</p>																																																																	
4 対応方針	総合評価	<p>● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止</p>																																																																	
	評価理由	<p>事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。</p>																																																																	
	備考																																																																		

【用語説明】

※1 ヘリフォワードベース： … 災害時に人命救助、物資輸送等を行うヘリコプターの運用拠点として、被災地近傍で燃料や装備、物資等の補給を行う前進基地

いっばんけんどう はち みねこうえんせん どうろかいちく
一般県道 蜂ヶ峯公園線 道路改築事業

